

取扱いの趣旨

クロナゼパムは、「小型（運動）発作、精神運動発作、自律神経発作」に適応があり、うつ病およびパーキンソン病の病態においては、てんかん、けいれんの症状は通常生じないことから、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】

《令和6年11月29日》

379 うつ病等に対するクロナゼパムの算定について

○ 取扱い

次の傷病名に対するクロナゼパム（リボトリール錠）の算定は、原則として認められない。

- (1) うつ病
- (2) パーキンソン病

○ 取扱いを作成した根拠等

クロナゼパム（リボトリール錠）は、抗てんかん薬の一つであり、その添付文書の効能・効果は「小型（運動）発作「ミオクロニー発作、失立（無動）発作、點頭てんかん（幼児けい縮発作、BNSけいれん等）」、精神運動発作、自律神経発作」と示され、作用機序にGABAニューロンの働きを増強するとある。

うつ病及びパーキンソン病の病態においては、てんかん、けいれんの症状は通常生じないため、本剤の適応はないと考える。
以上のことから、うつ病、パーキンソン病に対する当該医薬品の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

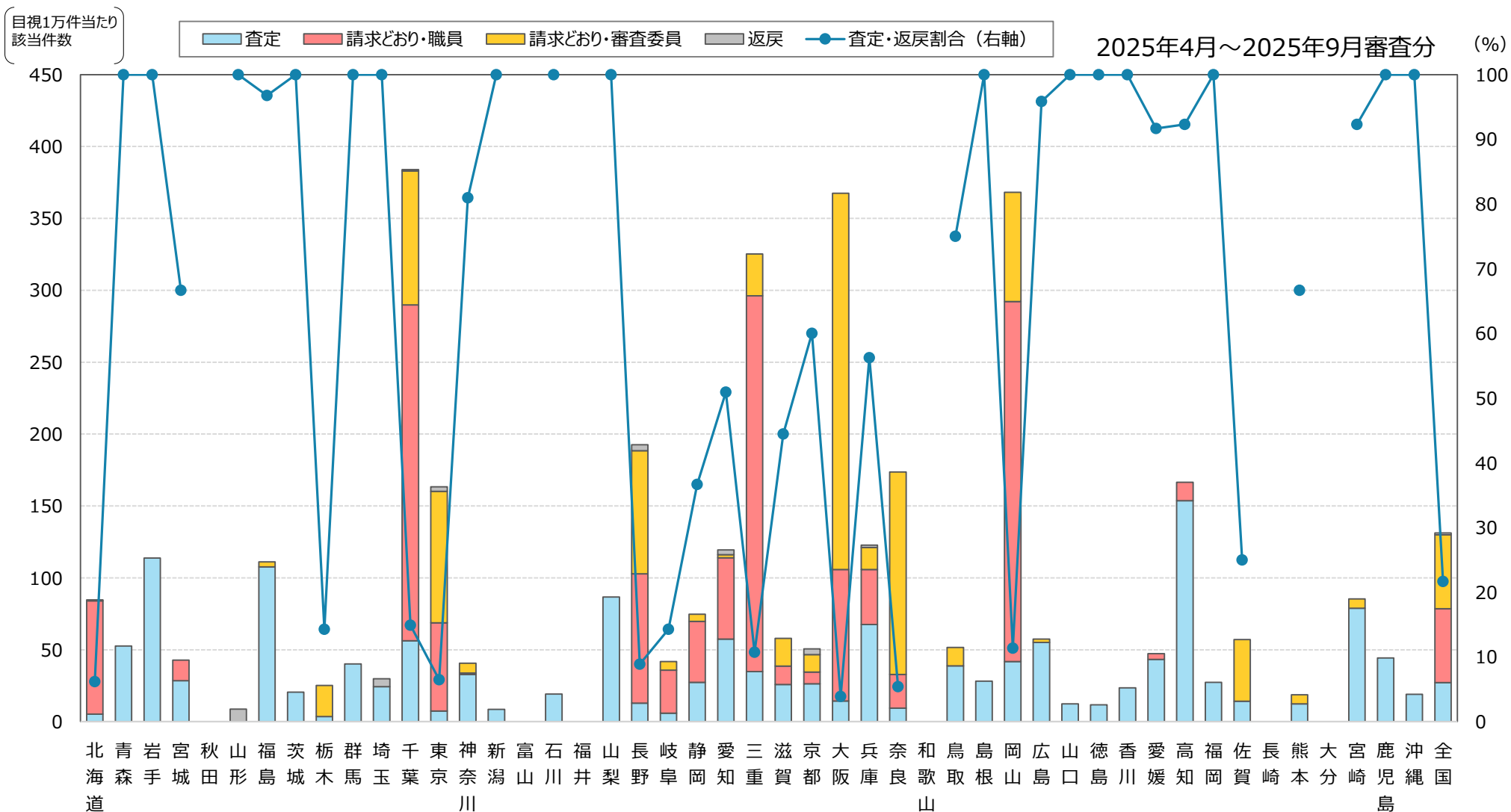
➤ 全国の査定・返戻割合 21.66%

➤ 検証対象都道府県 18

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	大阪、奈良、北海道、東京、長野、三重、岡山、栃木、岐阜、千葉、佐賀、静岡、滋賀、愛知、兵庫、京都	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	三重、岡山、千葉、大阪、長野、北海道、東京、愛知、静岡、兵庫、岐阜、奈良、宮城、滋賀、京都	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	大阪、奈良、千葉、東京、長野、岡山、佐賀、三重、栃木、滋賀、兵庫、鳥取、京都、岐阜、静岡、愛知	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,451件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	531件
検証を必要とする審査	請求どおり	1,920件



【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数